

平成28年度上半期も国際会議の京都開催が続々と決定！

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー（KCVB）では、昨年度大規模国際会議を多数誘致することに成功して参りましたが、平成28年度上半期も継続して順調に国際会議の誘致に成功しておりますので、お知らせいたします。

本年度は、現時点までで4件の国際会議の誘致に成功しており、うち2件はアジアで初めての開催となります。

これらの会議は、いずれも京都市の大規模コンベンション開催支援助成金制度を利用しており、昨年度の京都市による各種MICE助成金制度大幅拡充や、継続的な国内外でのPR活動、誘致ノウハウの蓄積と向上等により、着実に誘致成功件数が増加しております。

国際会議の開催は、参加者の市内滞在期間が長く、入洛数の増加に伴う経済波及効果が期待できますが、同時に、学術・研究の発展、研究者同士のネットワーク構築のための重要な機会となるとともに、京都に集うことによって、京都の魅力が発信され、京都・日本の国際競争力の向上にもつながります。

下半期にも、大型の国際会議数件の開催決定が予定されておりますので、継続して支援を行い、京都への国際会議誘致に取り組んでまいります。

<誘致支援の結果、開催地が決定した会議>

第5回世界パーキンソン病学会 5 th World Parkinson Congress			
会期	2019年6月頃の5日間		
会場	国立京都国際会館		
参加予定人数 (うち、外国人)	3,200名 (2,000名)	参加予定国数	50か国
概要	<ul style="list-style-type: none">・2016年6月の国際本部役員会議にて各候補地によるプレゼンテーションが行われ、その後、開催地が決定。従来、欧米にて開催されており、<u>アジアでは初めての開催</u>となる。・日本政府観光局（JNTO）や、京都市とも連携して支援を行い、クアラルンプール、台北の競合から、誘致を勝ち取った。・昨今、世界においてパーキンソン病が注目される中、研究者や医師・患者・ご家族等約3,000人が京都に集い、最先端の研究成果が発表されるとともに、患者・ご家族の間のネットワーク構築も行われる重要な機会となる。・観光庁の経済波及効果測定モデルによる試算では、京都市への経済波及効果は、約8億8,200万円が見込まれている。		

社会経済学発展学会 Society for the Advancement of Socio Economics			
会期	2018年6月23日～6月25日		
会場	同志社大学今出川キャンパス		
参加予定人数 (うち、外国人)	1,000名 (800名)	参加予定国数	18か国
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・7月にアメリカで開催された2016年大会にて各候補地によるプレゼンテーションが行われ、競合のニューヨークを破り、京都誘致に成功。 ・KCVBでは誘致に際し、開催に向けての助成金等のコンサルティングを行い、京都での開催に結び付けた。 ・本国際会議は従来欧米にて開催されており、<u>日本では初めての開催となる</u>。同志社大学は社会経済学の分野において国際的プレゼンスが高い。 ・本件国際会議の開催によって、京都がアジアにおける社会経済学の分野での拠点と位置付けられ、認知度が高まるだけでなく、参加者の京都への訪問を通じて、京都の文化的価値・本質的理解が世界に広まることが期待できる。 		

炭素材料国際会議 The World Conference on Carbon (Carbon2020)			
会期	2020年6月28日～7月3日		
会場	京都市勧業館 みやこめっせ		
参加予定人数 (うち、外国人)	約800名 (400名)	参加予定国数	30か国
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の炭素材料研究レベルは高く、世界を長年リードしてきた。 ・KCVBは誘致に向け、各種資料の提供等を通じ、誘致に向けたコンサルティングを行った。 ・今回の開催に向けた立候補は2度目となったが、国内関係者の意思統一が早くからできており、積極的なロビイングと開催地としての京都の魅力が功を奏し、2020年大会の京都開催が決定した。 ・日本での開催は2008年の長野開催に続き、二度目となる。 		

第46回国際腰椎学会

The 46th Annual meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine

会期	2019年6月3日～6月7日		
会場	ウエスティン都ホテル京都		
参加予定人数 (うち、外国人)	約520名 (270名)	参加予定国数	28か国
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者側では1年前より招致委員会を立ち上げ、綿密に準備を行ってきた。5月に開催されたシンガポール大会でのプレゼンテーションの末、京都開催が決定。 ・KCVBでは、各種ツール提供の他、誘致を担当する会議運営会社とも連携し、誘致を支援。 ・同会議は1989年に京都で開催され、日本での開催は30年ぶり2度目となる。 		

<本件に関する問い合わせ先>

国際観光コンベンション部 MICE課
松井，新名，スティーブンス